安全作業手順書【舗装小補修】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具・車両	舗装カッター、ブレーカー、スコップ、ジョレン、ピック、レーキ、プレートコンパクター、振動ローラー、小型移動式クレーン、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、保護メガネ、保護マスク、皮手袋、軍手

見積もり基準をした危険性の評価

重大性(B)／可能性(A)	○ 軽微（不休と休業３日以内）	△ 重大（休業４日以上）	× 極めて重大（死亡・障害が残る）
○ ほとんど起こらない（５年に１回程度）	○○（極めて小さい）	○△（かなり小さい）	○×（中程度）
△ たまに起こる（１年に１回程度）	△○（かなり小さい）	△△（中程度）	△×（かなり大きい）
× かなり起こる（６ヶ月に１回程度）	×○（中程度）	×△（かなり大きい）	××（極めて重大）

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし（様子を見る）
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント（～なので～になる）	ﾘｽｸの見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ	安全対策（危険度２以下へ）（私達はどうする）	ﾘｽｸの再見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1
		作業員の役割（運転手、助手）を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する	○	△	2
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う	○	○	1
		しらすんだーの動作確認及び点検を行う	朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする	電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1
		使用材料の安全データシートを確認し、取扱い方法、使用時の防護状況を把握し、危険性の周知を行う									
	車両確認	セーフティーバイブル	25.車両回送手順書に則る								
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
				ローラーを小型移動式クレーンで荷降しする際に一般車両に接触する	○	×	3	通行帯の反対側に旋回させる	○	○	1
	カッター工	補修予定ラインを引く	チョークなどを使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		ラインに沿って深さ6cmで舗装面にカッターを入れる	①舗装カッターに水を注入して、水が本線に出ないように	/	/	/	/	/	/	/	/
			②橋梁上などは、舗装厚に注意して	舗装厚以上を切り込み、床版を傷つける	○	×	3	事前に現場の舗装厚を調べておく	○	○	1
	はつり工	ブレーカー、ピック等で舗装をはつり取る		ブレーカーのホースが外れ走行車両に接触する	○	×	3	使用前後に緩みが無いか確認する	○	○	1
			①舗装の悪点部分を残すことなく全て	はつりがらが一般車両に飛散する	○	×	3	飛散防止ネットを設置してからはつる	○	○	1
				ブレーカーで足、手をを突き	△	△	3	必ず安全ぐつを着用し、ガラかきはノミのそばに手を出さない	○	○	1
			②車線側では必ず飛散防止ネットを使用して	飛散防止ネットが強風により倒れ接触を起こす	△	△	3	①飛散防止ネットの四隅にウェイト(30kg程度）を設置する ②作業車両または遮音壁、Gr等構造物にロープで2点固定する（ロープ固定が難しい場合は人力2人以上にて押さえる）	○	○	1
		はつり部分を綺麗に清掃し、深さ検測を行う	はつりガラを残すことなく	粉塵が目、肺に入り病気になる	△	×	4	保護ﾒｶﾞﾈ、マスクの安全着用を行う	○	○	1
	乳剤塗布	乳剤散布機にて塗布を行う	切断断面等、付着の難しい箇所は刷毛を使用して	作業途中に乳剤散布機を放置し、逸走し走行車両に接触する	○	×	3	必ず輪留めを使用し、路肩側に据え置く	○	○	1
				乳剤が飛散し一般車両にかかる	△	△	3	ｺﾝﾊﾞﾈ等で飛散防護し、風向きに注意して作業する	○	○	1
	舗設工	アスファルトを敷き均す	①工場発送時からの温度に気を付けて	/	/	/	/	/	/	/	/
			②スコップ、ジョレン、レーキを使用して	センターライン付近でレーキ柄が車線側へはみ出し車両に接触する	○	×	3	作業時は必ず現場監視員を配置する	○	○	1
			③7cm以上の敷均し厚の場合は、２回打ちで	/	/	/	/	/	/	/	/
	転圧	十分に転圧する	①プレートコンパクター、振動ローラを使用して	ローラー後退時、ローラーと作業車等で操作員が挟まれる	○	×	3	操作は必ずローラーの側面後方から行う	○	○	1
			②２回打ちの場合は、一回ごとに上記①に従い	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用後の機械を路肩に置く、又はトラック積み込む	水抜きを行い、逸走防止も忘れずに	作業途中に機器を放置し逸走し走行車両に接触する	○	×	3	必ず輪留めを使用し、路肩側に据え置く	○	○	1
		結合部にクラックシールを塗布する	風による飛散に十分注意して	クラックシールが風により飛散しやけどを負う	△	×	4	皮手を必ず着用し、風に十分注意して作業に臨む	○	○	1
				クラックシールの過度の加熱により出火する	△	×	4	すぐに使える位置に消火器を配置し、クラックシール加熱中は温度に注意し、釜から絶対に目を離さない	○	△	2
	養生	舗装温度が下がるまで、養生を行う	規制開放温度50°Cを確認して	/	/	/	/	/	/	/	/
	出来形検測	出来形検測を行う	養生時間内に	/	/	/	/	/	/	/	/
	仕上げ	場内の清掃を行う	竹ぼうきなどを使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		場内の状態確認を行う	使用道具、検測道具の置忘れに注意して	/	/	/	/	/	/	/	/
本作業	現場離脱、帰着	25.車両回送手順書に則る									
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にパルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
			②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと								
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1